

第1回検討会参加者からの主なご意見

○検討会設置の趣旨について

- ・ 空港オペレーションを変革していくにあたり、本検討会を活用したい。
- ・ 航空局からの情報でイレギュラーを早く察知し、顧客への早めの案内を実現したい。
- ・ 個別に入手していた情報の一括入手による効率化を期待。
- ・ 過去データの分析は、地域の拠点としてのターミナルビル戦略にも活用可能。
- ・ 大規模空港などの先行事例の共有による中小への波及効果、全体的な底上げを期待。
- ・ 外国航空機の運航情報の把握による効率的な作業が可能になる。
- ・ データが共有されることで、関係者間での会話や共通認識が確実になる。
- ・ 行政ほかの事務作業の生産性向上にも繋がると思う。
- ・ 災害対応能力の向上が見込まれる。

○現状認識について

- ・ キャンセルや遅延発生時における迅速なお客様対応が課題。
- ・ グランドハンドリングに関する人手不足。
- ・ 運航希望と受け入れ可能時間のミスマッチによる機会損失。
- ・ バス、タクシーなど二次交通との情報連携が不十分。
- ・ 空港到着ロビーでの情報収集による旅客滞留。
- ・ 空港会社が航空会社から情報をもらう効率的な仕組みがない。

○データ活用に向けた論点について

(データの内容・提供方法について)

- ・ どういった情報が航空局から提供されるか。
- ・ 外部の人間がオープンにデータを使えることが重要。

(データの提供方法)

- ・ データはどのような方法で提供されるか。
- ・ データを遅滞なく出せるか。

(使い勝手)

- ・ 自社システムとのプラットフォーム連携が必要。
- ・ データを使いやすくするプラットフォームである必要。

- ・プラットフォームがオープンであるか。

(アップグレード)

- ・ウェブ上での集計や可視化ができる機能の構築。

(その他ガバナンス等)

- ・データ提供者への利益保護を考慮すべき。
- ・二次利用の考え方の整理。
- ・情報を共有する“関係者”の範囲の整理。

以上